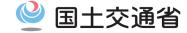
技術者制度検討会について



適正な施工確保のための技術者制度検討会の位置づけ



建設業が抱える課題

担い手の確保・育成

技術者と工事の品質確保

工法や雇用関係の変化と 技術者制度

適正な施工確保のための技術者制度検討会

技術者制度の意義

技術者が行うべき役割

技術者の具体的確保策

(1)技術者の効率的活用の推進

- ① 技術者の配置要件(監理技術者、専任)
- ② 技術者に求める直接的かつ恒常的雇用関係
- ③ 物価上昇等を踏まえた監理技術者、専任の 金額要件等
- ④ 民間資格等の活用

(2)優秀な技術者の確保

- ① 技術検定試験を受験しやすい環境整備
- ② 資格と業種区分の位置づけ

(3)技術力の維持・向上

- ① 監理技術者資格者証の改善
- ② 若手技術者等の現場経験評価

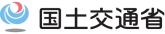
」 連携

技術検定委員会等の関連委員会

- •試験委員会等 (既設置委員会)
- ・解体工事の適正な施工確保に関する検討会【H26.08.04設置】

建設業法の業種区分における解体工事業の新設に伴い、配置される技術者に求められる技術・知識について検討

建設業法における技術者制度に関する論点



〇本来の技術者制度の意義

適正な施工の確保、技術者及び企業の技術力の維持・継承

最近の状況

- ①技術者不足への懸念
 - ・技術者の高齢化の進展、若年層の減少
 - ・維持更新時代に対応した中長期的に 必要とされる技術者の量と質が不明
 - ・民間による技術者育成策の広がり
- ②業界の声、周辺の動き
 - ・従来、元請業務であった監理的業務を 下請けが担っているとの声
 - ・建設投資の見通しが不透明で技術者の 雇用の維持が厳しいとの声
 - ・建設投資の増加に伴い、業界から 技術者不足、制度緩和の要望
 - ・新工法の開発等に伴い、技術者制度の 一部が生産性を阻害しているとの意見
 - ・経済界から規制緩和の要請

技術者の職務について

- ①職務内容、位置づけが不明確 (現場技術者を指導監督し、 施工の技術上の管理を統括 するという位置づけも曖昧)
- ②元請け、下請間の職務内容の 相違が不明確
- ③現場代理人との職務内容、 責任等が不明確
- ④営業所技術者の職務内容が 不明確

これまで指摘されてきた課題

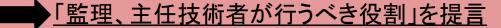
制度運用上の問題

- ①工事ごとの専任期間の 運用がまちまち
- ②不誠実な職務執行や 不正行為に対する 技術者の責任が不明確
- ③主任技術者等、有する 資格や実務経験等が 容易に確認できない実態
- ④入札参加資格の技術者 要件で厳しい経験を要求 されるため技術者が固定化

技術力の低下の恐れ

- ①技術者個人の技術力評価が 不十分
- ②技術者の継続的な学習を 評価する仕組みが未整備
- ③企業における技術者の育成 及び確保の優先度が低下 (厳しい経済状況)
- ④技術者育成に努める企業に 対する評価の仕組みが 未整備

・技術者の職務の明確化



運用改善及び技術者育成・確保

・適正な施工の確保、将来の担い手確保、 効率的な技術者の活用という観点から



技術者制度の各種要件の総点検